

ITS情報通信システム推進会議 3Gテレマティクス専門委員会

活動報告書

平成18年5月12日

3Gテレマティクス専門委員会

1. 3Gテレマティクス専門委員会活動概要

当専門委員会には、現在40の機関・企業・団体等から66名の専門委員が参加し、平成17年度は下図のとおり、2WG体制にて活動を展開。

3Gテレマティクス専門委員会構成

3Gテレマティクス専門委員会

専門委員長 : 中村 康久 (NTTドコモ)

調査検討WG

主査 : 吉田 青史 (松下電器)
副主査: 田村 俊之 (KDDI)

緊急通報検討WG

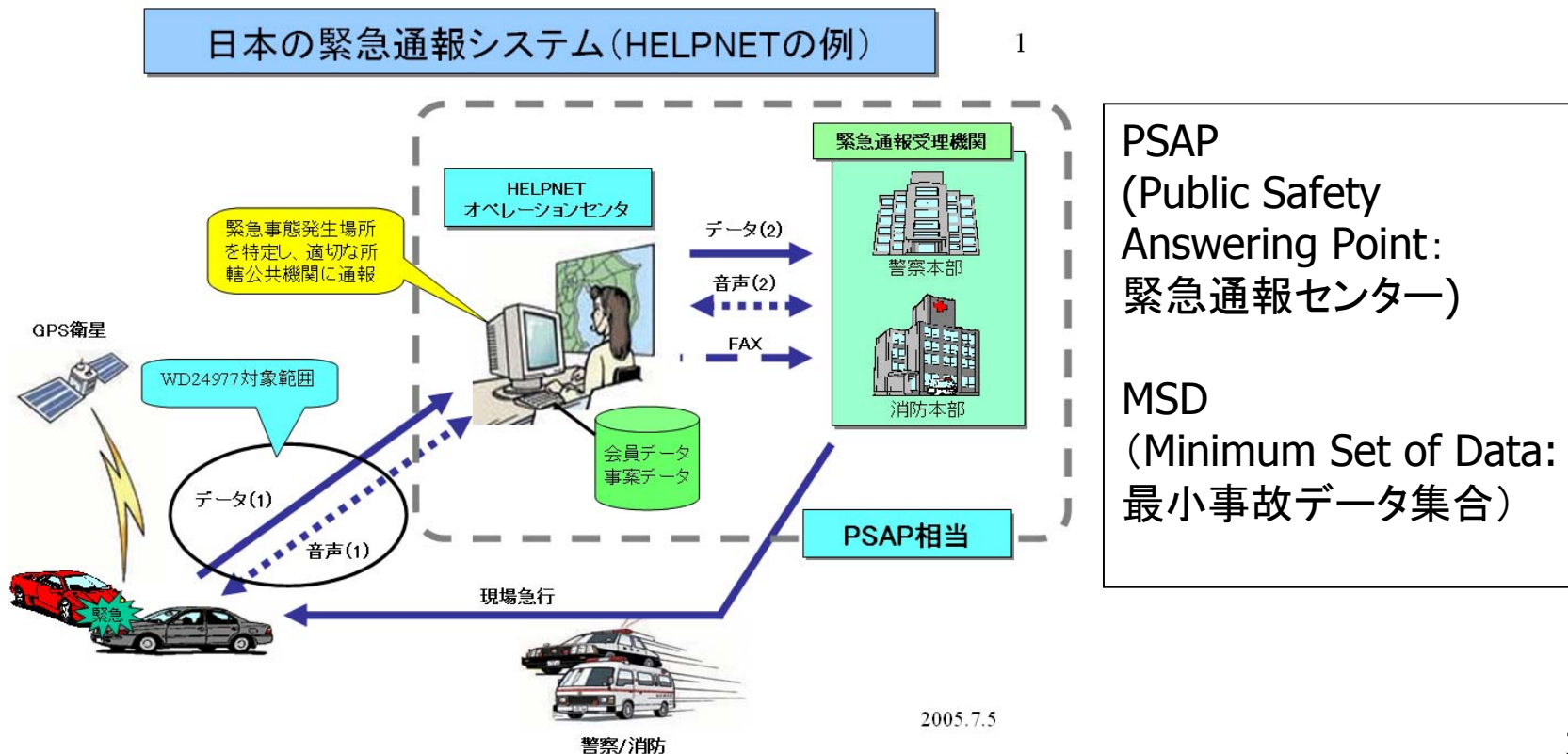
(2005年11月より新規に発足)

アンテナ技研、伊藤忠テクノサイエンス、インテル、NTT ソフトウェア、NTTドコモ、沖電気工業、オプトウェーブ研究所、カルソニックカンセイ、クラリオン、KDDI、ケンウッド、コミュニチュア、住友電気工業、ゼンリン、総務省、ソニー、デンソー、電波産業会、東芝、ドーシス、トヨタ自動車、中日本高速道路、日本電気、日本無線、野村総合研究所、パーク 24、パイオニア、日立製作所、富士通、富士通テン、古河電気工業、本田技術研究所、マスプロ電工、松下電器産業、三菱重工業、三菱商事、三菱電機、矢崎総業、ヨコオ、横浜国立大学

2.1 緊急通報検討WG:はじめに

eCallについて

eCallとは車両衝突等の緊急時に、緊急通報番号を呼び出して通話を行い、PSAPへMSDを通知する緊急サービスのことである。





2.2 緊急通報検討WG: eCallに関する海外・国内の動向

ISO/TC204/WG16/WG16.5について

＜海外の動向＞

2005年04月、ISO/TC204のパリ総会にて、欧州より「eCallに関する標準化案」が提出された。2005年09月、上記、2件の標準化案について各国からNP投票が行われ、可決されたが、2006年02月のCD投票では否決されたため、今後、再投票を行うことになっている。

＜国内の動向＞

2005年06月、キャリア、カーメーカ等が召集し、eCall国際標準化検討グループが新設された。上記NP投票、及びCD投票の内容について検討を行った。

3GPPに関連するeCall検討について

＜海外の動向＞

2005年04月、欧州監督庁の要請により、3GPPのSA1の会合において、利用シーンと要求条件を検討してきた。2006年2月、SA1#31の会合にて、「テクニカルレポート(TR)」が完成した。今後、必要に応じて通信方式を検討する。



2.3 緊急通報検討WG:新設について

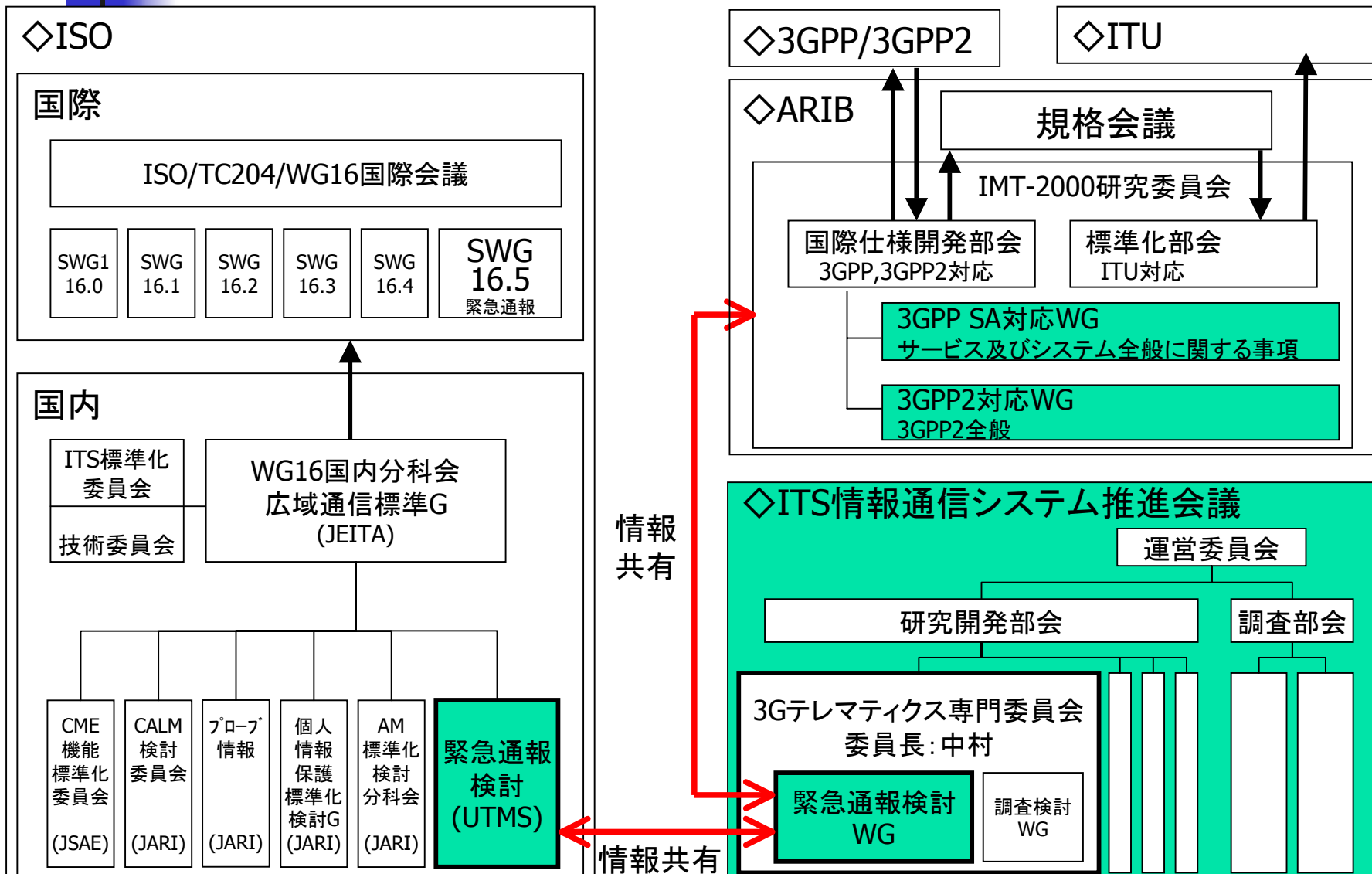
2005年07月、ITS情報通信システム推進会議の研究開発部会から3Gテレマティクス専門委員会へ『ecallに関するISOの動きについてARIBでどう捕らえるか』という検討依頼があった。

2005年09月の部会長・専門委員長会議にて、研究開発部会の3Gテレマティクス専門委員会の直下に、「緊急通報検討WG」が新設されることになった。

<新設理由>

ISO/TC204/WG16/SWG16.5 「eCallに関する国際標準化検討会」の活動内容と3GPP/SA1におけるeCall関連検討状況の情報共有を行う。

2.4 緊急通報検討WG:位置付け



2.5 緊急通報検討WG:2006年度eCall検討スケジュール

	2006年										2007年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
欧州オペレータにおける eCall方式検討	方式検討												
GSME		承認	6/2										
EC		ECに転送		レビュー・公開									
3GPP					3GPP展開								
					作業要否の検討								
	eCall検討を保留中					eCall方式の標準化検討							
緊急通報検討WG			☆ 第2回									☆ 第3回	
ISO	未定												

※3GPP関連のスケジュールについては想定。

3.1 位置情報表現形式ガイドラインPOIX_EX の改定について

■ 経緯

ITSのヒューマンインタフェースとし音声は非常に重要になりつつあり、わが国でも「次世代道路サービス提供システムに関する官民共同研究」が推進され、その結果のひとつとして、TTS(Text To Speech)用中間言語が音声合成文字列として取り扱えるよう当該のPOIX_EXに対して要請があった。



下記のとおり、位置情報表現形式ガイドラインPOIX_EX (ITS FORUM RC-001)の改定案を策定し、内容について第28回部会長・専門委員長会議にて承認を得た。

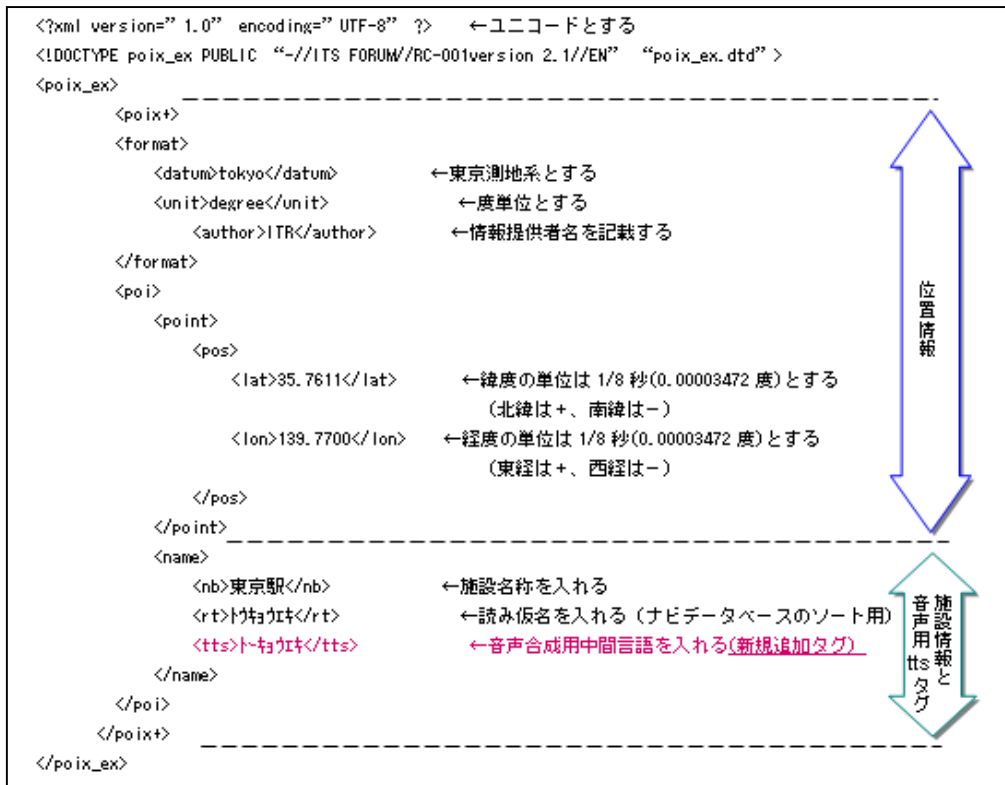
■ 改定内容

表題のガイドラインの構造表にTTS (Text To Speech)用中間言語(音声発生装置に機能する言語)をPOIX_EXのタグとして追加する。

3.2 POIX_EX ベースの位置情報提供の一例

tsタグを使用して施設情報等の位置情報提供で音声合成用中間言語を挿入の一例

右記のプログラムシーケンスの例は、RC-001 POIX_EXをベースとした位置情報に、地物である施設(ここでは東京駅)をナビに表示して、ttsタグにある文字列「トキョウエキ」が音声合成用中間言語として音声を発する。地物の検索用ソートにはrtタグ「トウキョウエキ」が読み仮名を提供する。



以上の例のように、マンナビやカーナビなどが標準的な形式で地物の検索と表示を行い、さらに音声サービスで合成音声用中間言語ttsを使用することにより利用者に解かり易い音調でのサービスが可能となる。

4.1 平成17年度活動状況 <専門委員会セミナー開催>

(1) 3Gテレマティクス専門委員会セミナー

開催日時 : 平成17年7月 8日(金) 15:00~16:00

場所 : 千代田区霞が関1-4-1日土地ビル地下1階
(社)電波産業会第5, 6会議室

テーマ : 「なぜ日本車は世界最強なのか」

講演者 : 東京理科大学大学院総合科学技術経営研究科客員教授

三澤 一文氏





4.2 平成17年度活動概要 <調査検討WGセミナー>

(2) 調査検討WGセミナーの開催

開催日時 : 平成17年12月 6日(火)15:00~17:00

場所 : 千代田区霞が関1-4-1日土地ビル地下1階
(社)電波産業会第5, 6会議室

テーマ及び講演者 :

- a. ITS世界会議2005(サンフランシスコ)参加報告
講師 : 松下電器産業(株) 吉田 青史
- b. テレマティクスにおける安心安全の取組み
講師 : トヨタ自動車(株) 日高 昭児
- c. 歩行者ネットワークデータの紹介と活用
講師 : (株)ゼンリン 青柳 京一



ITS世界会議2005(サンフランシスコ) 参加報告

2005年12月6日(水)

3Gテレマティクス専門委員会
調査検討WG

総括

動 向

◆各国の動向

-アジア

日本: ITSセカンドステージへ

中国: 北京オリンピック、上海万博を控え
ITSプロジェクトを推進

-米国: 511(リアルタイム交通情報提供など)

-欧州: eSafety(eCall、RTTIなど)

◆技術動向

-アジア

日本: DSRC、プローブ

-米国: ETC(FASTRAK)、DSRC(5.9GHz)、非接触IC(Trans Link)
VII(Vehicle Infrastructure Integration)

-欧州: VII,FCD(Floating Car Data),e-safety

感 想

-会期の前半2日間に、ETC,DSRC,511,プローブという注目のセッションが集中、セッション会場は立ち見が出るほどの盛況ぶり

-今回の世界会議は、VII(路車間協調)が復活したという印象

802.11p 5.9GHzの路車間通信、511(携帯電話でナビゲーション音声案内)等、アメリカも取り組みを始めた



歩行者ネットワークデータのご紹介

2005年12月 株式会社ゼンリン

－ 歩行者ネットワークデータのご紹介 －



カーナビゲーションと歩行者ナビゲーションの違い



← 歩行者ナビ画面

歩道、連絡道を通して、最短の経路を案内

距離: 543m
所要時間: 約8分(4km/h)

カーナビ画面 →

道路のみしか通行できないので、目的地まで駅を迂回する経路を案内

距離: 1294m
所要時間: 約3分(30km/h)



－ 歩行者ネットワークデータのご紹介 －



探索経路の比較



雨に濡れない経路探索

距離: 1322m

所要時間: 約20分

距離優先経路探索

距離: 1148m

所要時間: 約17分



4.3 平成17年度活動概要 <技術動向調査(平成17年度調査報告書)>

当専門委員会は、調査検討WGを中心に、3Gテレマティクスのサービス及びシステムに関する調査・検討を実施し、その概要について平成17年度調査報告書としてとりまとめを行った。

具体的には

- ① サービス・アプリケーションの最新動向として、主にサービス・アプリケーションの観点から考察し、トヨタG-BOOK、日産CARWINGS、ホンダInterNAVI Premium Club、マツダ MAZDA G-BOOKの取り組み事例と特徴、システムの特徴、等について調査した。
- ② 公衆移動通信サービスへの各通信事業者の取り組み動向と題し、NTTドコモ、au(KDDI)、Vodafone移動通信事業者毎の取り組み動向を調査し、平成17年度のトピックス的な事項を中心に調査・考察を行った。
- ③ 安全への取組み現状と3Gテレマティクスへの展開として、国内外の取組み事例を調査し、環境への取組み現状と3Gテレマティクスへの展開として、マルチモーダルシステムについて調査を行った。また、具体的事例としてサンフランシスコ、バイエリアの511サービスについて情報を記載した。



5. 平成18年度活動予定

■活動内容

平成17年度の活動結果及び、今後の移動通信システム及びテレマティクスサービスの進展等を踏まえつつ、各種ITSサービス実現のための最新テレマティクスサービスの調査・検討を今年度同様、調査検討WGと緊急通報WGの2 WG体制で実施する。具体的な取り組みは以下のとおりである。

- (1) 第3世代移動通信技術及び次世代通信技術のITSへの応用検討
- (2) 海外におけるテレマティクスサービスの現状調査及び国内ITSへの応用検討
- (3) 3GPP(SA1)及びISO(SWG16.5)での緊急通報に関わる検討状況の把握
- (4) セミナーの実施
- (5) 歩行者の安心・安全に関する検討